

カーディフ大学 日本語教育実習



外国語学部外国語学科外国語専攻
藤永 柚衣

渡航先：ウェールズ カーディフ カーディフ大学

滞在期間：2月14日～3月28日

研修期間：2月15日～3月11日

費用：旅費 約17万（KLM航空）

学費 2090ポンド（大学代、語学学校代、寮代）※1※2

生活費 約300ポンド（食費など）※3

（滞在中レート1ポンド約160円）

※ 費用は全て個人負担

※1 プログラム自体は4週間で1800ポンドだが、語学学校を個人的に一週間延ばしたので2090ポンド

※2 日本から送金するか、現地で払うかは選択可能

※3 朝昼晩の食費

参加者：北九州市立大学 2名

姫路獨協大学 1名

計3名

日程：第一週目 TBLT についての講義

第二週目 午前中は CELT（語学学校）に通い、
午後は授業見学、講義、教案作成

第三週目 第二週同様

第四週目 教育実習

受入先機関情報：大学 カーディフ大学

教員 百濟正和先生

学生 ビジネスコース 2 年生 8 名、欧州言語コース 2 年生 9 名

授業 語彙 文法 翻訳 読解など週 10 時間

実習内容：プログラムが始まる前日の 17 時に着き、それから寮に行った。寮は一人部屋で、5 人（北九州市立大学の日本人二人、イタリア人、トルコ人各一人）で一つのリビングやキッチンシェアしている。次の日 9 時 15 分から、二週目から通う語学学校（CELT）へ行きプレースメントテストを受け、軽く面談し、それによってクラス分けされる。私は面談で、スピーキング重視したいということを伝えた。寮から語学学校までは歩いて 15 分ぐらいかかるころにあった。テストが終わり、そこの先生から学校やカーディフの説明を聞き、12 時 30 分に終わった。それから ID を作りに行った。寮から大学までは 5 分ぐらいで着く。それから百濟先生に会い、学校の説明を受けて校内見学をした。17 時からカーディフ大学の学生や先生たちが開いてくださったレセプションパーティーに行き、お菓子を食べながら交流を深めた。三日目からは大学で百濟先生の講義が一日 2 時間と授業見学が 2 時間ある。講義では TBLT（Task-Based Language Teaching）についての内容や知識、PPP（Presentation-Practice-Production）の順に追っていく指導方法との違いなどパワーポイントを使いながら学んだ。授業見学は曜日によって時間はバラバラで、百濟先生以外の先生方の授業にも見学に行った。見学といっても見るだけでなく、ほとんどは授業に参加してペアワークやグループワークを生徒と一緒にしていたので、楽しく授業の雰囲気や流れをつかむことができた。金曜日までこのようなスケジュールで、金曜の夜は友達たちにパブへ連れていってもらった。その週の日曜日はバスで 3 時間かけてロンドンへ行った。カーディフとはまた違った雰囲気で楽しめた。二週目から、語学学校が始まり、午前中 9 時 15 分から 12 時 45 分までである。寮を 8 時 55 分に出ると余裕をもっていくことができる。授業は 3 コマあり、少人数制でやりやすかった。午後からは、一週目と同じように授業見学と TBLT の講義がある。三週目も語学学校があり、百濟先生の講義は終わるので、教案づくり、そして教案の提出、確認などのミーティングが入る。そこで百濟先生の指摘やアドバイスが入り、教案の最終仕上げにかかる。時間があれば、授業見学に行くのもよい。私はなるべくたくさんの授業見学に行った。授業に参加できるので楽しかったのはもちろん、授業の進め方なども勉強になるし、そこで学習者と仲良くなることができ、一緒に食事へ行ったり、教案を作るにあたってアドバイスをもらえたりする。教案づくりはこのプログラムに参加している 2 人と一緒に作った。一人 2 コマ分の教案を作り、2 クラス担当するので計 4 時間授業することになる。4 週目が実習となる。私は月曜日に 2 時間、火曜日に 2 時間実習をして、そのあとフィードバックセッションが始まった。そこでその日の授業の問題点をほかの実習生 3 人と挙げていき、百濟先生にまとめたものを伝えて、次の授業に向けての課題ができる。はじめはとても緊張するが、学習者たちが

応援してくれたり、授業がおわればお疲れさま、と声をかけてくれたり、そのおかげで緊張がほぐれ頑張ることができた。

生活：カーディフ市は英国の首都であるロンドンから高速バスで約三時間のところにある。高速バスは事前に予約すれば安いので利用する人は多い。カーディフからロンドンまでは往復 16 ポンド (約 2500 円) で行けた。シティセンターまでは寮から歩いて 20 分ぐらいの所にあり、そこでショッピングしたりお土産を買ったりできる。カーディフは、学生の街と言われていて、それぐらい学生が多いので朝も夜も外は人が多く安全だった。私の場合、4 週間のプログラムの後、個人で 2 週間増やし、一週間は語学学校へ行き、その次の週はイースターで学校が休みだったのでホームステイをした。またその間にアイルランドへ観光しに行った。アイルランドへは、飛行機で 1 時間でいける。

感想：本学では PPP という流れの教授法を学んできたので、TBLT はとても新鮮だった。学習者とのコミュニケーション手段は、英語だけでなく日本語もあったので、とても仲良くなれた気がする。教案を作って実際に授業をするということで、楽しいだけじゃなくたくさん悩んで大変だったが、ほかの実習生や百済先生にアドバイスを聞いたり、たくさん話し合いもして、とてもやりがいがあった。

今回、カーディフに着いた次の日から講義が始まったのだが、時差ボケや、長時間の飛行機で疲れもあるので、一週間前にはカーディフに着いておいて、一週間後の講義までに軽く観光したり疲れを取ったりすることをおすすめする。また、4 週間のプログラムが終わった後も一週間長めに滞在することをおすすめする。

